myPresto 5.0

- sievgene -

TUTORIAL 2018/01/12

Copyright (C) 2006-2018 Next Generation Natural Product Chemistry (N²PC)

本ドキュメントについて

本ドキュメントは、「*myPresto* 5.0 USER MANUAL」の別冊です。コピーライト、プログ ラム使用許諾条件、著者および引用文献については、「*myPresto* 5.0 USER MANUAL」の記 述に準じます。

謝辞

本ソフトウェアの研究開発は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の援助に よって行われました。ここに感謝の意を記します。

本ソフトウェアは、故・京極好正博士の始められた研究の中で開発されました。

目次

1.	本チュートリアルの概要	1
2.	インストール方法	2
3.	ディレクトリ構成	4
4.	動作検証用テストプログラムの実行	5
5.	ドッキングシミュレーションに必要なファイル	10
6.	ドッキングシミュレーションの手順	.11
7.	手順の具体例	12
	7.1. リゾチーム(4HP0)の例	12
	7.2. AmpC(2PU2)の例	19
	7.3. Factor Xa(2W26)の例	21
	7.4. トロンビン(2PKS)の例	23
8.	ツールプログラムについての説明	28
9.	リファレンス	31

1. 本チュートリアルの概要

本チュートリアルは、sievgene_pack に含まれるプログラム、および、サンプルデータ を使用して、タンパク質と低分子化合物との最適ドッキングポーズを探索・評価する手 順について説明したものです。sievgene_pack は、sievgene 実行のために必要なツール プログラムをセットにしたものです。

sievgene_pack には、以下のプログラムが含まれています。

- sievgene_for_dockingpose (ドッキングポーズを精度良く計算するための sievgene)
- sievgene_for_screening (スクリーニング用の sievgene)
- tplgeneX (タンパク質、核酸等の高分子用)
- tplgeneL (低分子化合物用)
- Hgene (化合物への水素原子付加、原子の部分電荷計算など)
- make_point (ドッキングの範囲を指定するためのプローブ点を発生させるプログラム)

● pdbcheck (PDB ファイルを修正するプログラム)

- ツールスクリプトプログラム
 - > get_pdb_info.pl (PDB ファイルの内容を確認するプログラム)
 > select_chain.pl (PDB ファイルから特定の鎖を抜き出すプログラム)
 > select_res.pl (PDB ファイルから特定の残基名の分子を抜き出すプログラム)
 - ▶ exec_tplgeneL.sh (環境変数 TPLL_DB_PATH を設定せずに tplgeneL を実行するプログラム)
 - ▶ exec_tplgeneX.sh (環境変数 TPL_DB_PATH を設定せずに tplgeneX を実行するプログラム)

●インストーラープログラム

- ▶ install.sh (インストーラープログラム)
- テスト計算自動実行プログラム
 - ▶ test_4HP0.sh (4HP0.pdb を使ったドッキングの自動実行プログラム)
 - ▶ test_2W26.sh (2W26.pdb を使ったドッキングの自動実行プログラム)
 - ▶ test 2PU2.sh (2PU2.pdb を使ったドッキングの自動実行プログラム)
 - ▶ test_2PKS.sh (2PKS.pdb を使ったドッキングの自動実行プログラム)

▶ test_all.sh (test_4HP0.sh, test_2W26.sh, test_2PU2.sh, test_2PKS.sh を 自動実行して、結果をまとめて出力するプログラム)

sievgene_pack に含まれているプログラムは以上です。

2. インストール方法

sievgene_pack は、sievgene_packYYMMDD.tar.gz という圧縮ファイルで配布されて います。(YYMMDD は、年月日を表す数字です。)本パッケージは、Linux/Unix 環境 用で、個人的に使用することを想定しています。つまり、ユーザーのホームディレクト リの下にインストールして、自分のみで使用することを想定しています。/usr/local/bin 等の共用ディレクトリにはインストールしませんので、管理者用アカウントは必要あり ません。ホームディレクトリの下のどこかに、sievgene_packYYMMDD.tar.gz を配置 して、次のコマンドで展開してください。

% tar -xzvf sievgene_packYYMMDD.tar.gz

展開後に sievgene_packYYMMDD という名前のディレクトリができます。以下のコマ ンドを実行すると、インストールを開始します。終了まで少し時間がかかります。

% cd sievgene_packYYMMDD

% bin/install.sh

引数なしで install.sh を実行した場合には、ifort を使わずに、プログラムをコンパイル します。次のように"intel"を引数に与えると ifort を使ってプログラムをコンパイルし ます。

% bin/install.sh intel

sievgene_packYYMMDD/bin の下に、以下の実行ファイルが作成されていれば、イン ストールは問題なく完了しています。

- sievgene_dk
- $\bullet \ sievgene_sc$
- tplgeneX
- \bullet tplgeneL
- Hgene
- pdbcheck
- make_point

実行ファイルが作成されていないものについては、各プログラムのコンパイル用に用意 されている Makefile の内容をチェックしてください。 引数を与えずに install.sh を実行した場合には、以下のコンパイラを使います。

- sievgene_for_dockingpose(sievgene_dk): gfortran
- sievgene_for_screening(sievgene_sc): gfortran
- tplgeneX: gcc
- tplgene: gcc
- tplgeneL: /usr/bin/cc
- Hgene: gfortran, gcc
- pdbcheck: gfortran
- make_point: gfortran

"intel"を引数に与えて install.sh を実行した場合には、以下のコンパイラを使います。

- sievgene_for_dockingpose(sievgene_dk): ifort
- sievgene_for_screening(sievgene_sc): ifort
- tplgeneX: gcc
- tplgene: gcc
- tplgeneL: /usr/bin/cc
- Hgene: ifort, icc
- pdbcheck: ifort
- make_point: ifort

3. ディレクトリ構成

sievgene_packのディレクトリ構成は以下のようになっています。

sievgene_pack のディレクトリ構成:

sievgene_packYYMMDD/
OREADME
lbin/
install.sh
lclean binary, sh
exec tplgeneX sh
exec this are sh
test_2W26.sh
test_2PU2. sh
test_2PKS. sh
test_all.sh
(sievgene dk) (install.sh 実行後に出現)
(sjevgene_sc) (install sh 実行後に出現)
(tplgeneX) (install sh 実行後に出現)
- (the sense) (install sh 宇行後に出現)
- (thighno) (finetal) sh 天行後に出現)
(h)
「「「(IgCric)」 (IIIStall.SI) 実行及に山坂/ (ndhahaal) (install.sh 実行次に山田)
(pdpCrieck) (Install.sh 実行後に出現)
(make_point) (Install. sn 美行俊l-出現)
input/
Makefile
tplgeneX/
sievgene/
sievgene_manual_v4. 400_ja. pdf
sievgene_tutorial_v4.400_ja.pdf (このドキュメント)
tplgeneX_manual_v4. 400_ja. pdf
Hgene_manual_v4.400_ja.pdf
`—pdbcheck_manual_v4.400_ja.pdf
sample/
I – 4HPO pdb
-2PKS ndb
2100.000
$\int_{-\infty}^{\infty} \frac{1}{2} r (x_0 - r) dx_0 + r (x_0 - r)$
samplez/
allrun.sh
all_for_2010. inp
pro_list
1ai5/
`1c1e/

4. 動作検証用テストプログラムの実行

インストールに成功したら、動作検証用テストプログラムを実行するとよいでしょう。 このプログラムは、サンプルとして用意したタンパク質と低分子化合物に対して、準備 からドッキング計算までを自動的に実行します。sievgene_pack には、test_4HP0.sh, test_2PKS.sh, test_2W26.sh, test_2PU2.sh の4つのテスト計算プログラムと、それら を全て実行する test_all.sh が用意されています。

まず、test_4HP0.sh を実行してみましょう。sievgene_pack/の下で、次のコマンドで 実行してください。

% bin/test_4HP0.sh

test_4HP0.sh を引数なしで実行すると sievgene_dk を使ったドッキング計算を実行し ます。このプログラムが最後まで問題なく実行されれば、4HP0.pdb のタンパク質に対 して、1 つの化合物(c001_1.mol2)をドッキングさせた計算が終了しています。ドッキ ング計算の結果は、sievgene_packYYMMDD/dock_4HP0/の下に保存されています。 ex.score にドッキングスコアが、ex.mol2 にドッキングポーズが出力されています。 次のように、screening を引数に与えて test_4HP0.sh を実行すると sievgene_sc を使 ったドッキング計算を実行します。

% bin/test_4HP0.sh screening

dock_4HP0/ex.score の内容(GNU コンパイラ位	吏用, sievgene_dk, MacBookPro):
INFORMATION> BEFORE MINIMIZE RANKING : EXPERIME	NT ID=1
INFORMATION/ LOCAL SCORE RAINTING 5	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	ELEHYDVDWSURFACERMSD1. 18-18. 640. 000. 0024. 950. 28-16. 310. 000. 0025. 30-2. 02-11. 310. 000. 0025. 95-1. 26-19. 160. 000. 0025. 571. 47-18. 800. 000. 0025. 11
REFERENCE COORDINATE DATA 999.90 999.90 0.00 0.00	
INFORMATION> AFTER MINIMIZE RANKING :EXPERIME INFORMATION> LOCAL SCORE RANKING 5	NT ID=1
COMPOUND NAME : HTS1404-00000229-01 FILE NAME : ligand.mol2	
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	ELEHYDVDWSURFACERMSD2. 37-18. 70-0. 6968. 3024. 981. 18-18. 640. 0068. 2624. 95-0. 64-11. 43-0. 5066. 4825. 981. 69-18. 54-0. 8269. 5625. 220. 28-16. 310. 0066. 5025. 30
REFERENCE COORDINATE DATA 999.90 999.90 0.00 0.00	
INFORMATION> COMPOUND RANKING 1	
COMPOUND NAME 1 HTS1404-00000229-01	SCORE (/100) dG LE (/10) NHA -1.94 -5.30 -1.39 14
INFORMATION> LIGAND EFFICIENCY RANKING	
COMPOUND NAME 1 HTS1404-00000229-01	LE (/10) -1. 39

sievgene を使った計算では乱数を使っています。乱数列は、同じシードで初期化して いますので、プログラムのコンパイルに同じコンパイラを使用し、同じ計算機環境で計 算を実行した場合は、同じ結果が得られます。しかし、違うコンパイラを使って実行フ ァイルを作成した場合や、計算機環境が違う場合には、同じ結果になりません。 次の結果は、intel コンパイラを使用してプログラムをコンパイルした場合の結果です。

dock_4HP0/ex.score の内容(intel コンパイラ使用, sievgene_dk, MacBookPro): INFORMATION> BEFORE MINIMIZE RANKING : EXPERIMENT ID=1 INFORMATION> LOCAL SCORE RANKING 5 SCORE (/100) dG VDW SURFACE RMSD LE/10 NHA rotNum ASA ELE HYD -1.35 14 -1.8835 -5.17 0 -170.89 1.18 -18.64 0.00 0.00 24.95 1 2 -1.8627 -5. 08 -1.33 14 0 -170.24 0.28 -16.31 0.00 0.00 25.30 -2. 02 -1.8387 -4.94 -1.31 14 0 -170.54 0.00 0.00 25.95 3 -11.31 -1.8378 -5.06 -1.31 14 0 -163.36 -1.26 -19.16 0.00 0.00 25.57 4 -5.05 -166.38 5 -1.8371 -1.31 14 0 1.47 -18.80 0.00 0.00 25.11 REFERENCE COORDINATE DATA 999.90 999.90 0.00 0.00 INFORMATION> AFTER MINIMIZE RANKING : EXPERIMENT ID=1 INFORMATION> LOCAL SCORE RANKING 5 COMPOUND NAME : HTS1404-00000229-01 FILE NAME : ligand.mol2 SCORE (/100) dG LE/10 NHA rotNum ASA HYD VDW SURFACE RMSD ELE -173.67 (a) -1.9702 -5.44 -1.41 14 0 0.10 -22.87 -0.59 69.84 24.91 1 -5.30 @ 2 -1.9406 -1.39 14 0 -177.04 2.37 -18. 70 -0.69 68.30 24.98 a 3 -1.9054 -5. 11 -1.36 14 0 -177.93 -0.41 -11.70 -0.50 63.66 25.96 -1.36 -1.36 a 4 -1.8983 -5. 21 14 0 -172.38 1.18 -18.64 0.00 68.26 24.95 -5.09 -177.17 -0.64 -11.43 -1.8974 14 0 25.98 a 5 -0.50 66.48 REFERENCE COORDINATE DATA 999.90 999.90 0.00 0.00 INFORMATION> COMPOUND RANKING 1 SCORE (/100) dG COMPOUND NAME LE (/10) NHA 1 HTS1404-00000229-01 -1.97 -5.44 -1.41 14 INFORMATION> LIGAND EFFICIENCY RANKING COMPOUND NAME LE (/10) 1 HTS1404-00000229-01 -1.41

				-		
# HTS1404-000 # # LIGAND_E # NUMBER_OF_HE # # @ <tripos>MOLEC HTS1404-000002 21 22 SMALL USER_CHARGES</tripos>	00229-01 SCORE = dG-SCORE = FFICIENCY = AVY_ATOMS = ELE = HYD = VDW = RMSD = ULE 29-01 0 0 (1 of = -194.05 = -5.30 = -1.38 = -177.04 = 2.36 = -18.69 = -0.69 = 24.97	5 596 039 361 14 405 582 965 909 758			
@ <tripos>ATOM 1 C 2 C 3 H 4 N 5 C 6 C 7 N 8 H 9 C 10 C 11 H 12 C 13 H 14 N 15 H 16 H 17 C 18 Br 19 C 20 H 21 Br @<tripos>BOND</tripos></tripos>	23. 5598 23. 3936 22. 8935 24. 2111 23. 1520 23. 9967 24. 5135 24. 9908 23. 3570 22. 4806 22. 2979 22. 9053 23. 0935 24. 0280 23. 5531 24. 4832 21. 9876 24. 2342 22. 2504 21. 9316 20. 9708	5.9190 5.8692 5.1190 7.0221 5.0239 7.0849 7.7602 8.6350 5.0950 3.9085 3.7345 4.0670 4.0982 7.5505 7.0959 8.3973 2.9327 6.3883 3.0105 2.2078 1.5495	-4. 0341 C. ar -2. 6965 C. ar -2. 1174 H -4. 2947 N. ar -4. 9834 C. ar -2. 1762 C. ar -3. 2014 N. ar -3. 2186 H -6. 4088 C. ar -4. 5311 C. ar -3. 4799 H -7. 1917 C. ar -8. 2680 H -0. 9043 N. p13 -0. 1620 H -0. 6380 H -5. 3270 C. ar -7. 5257 Br -6. 6665 C. ar -7. 2979 H -4. 5649 Br	1 UNK 1 UNK	-0. 0048 -0. 3298 0. 1575 -0. 1297 0. 0490 0. 1235 -0. 1664 0. 2883 -0. 0999 -0. 1017 0. 1449 -0. 1208 0. 1467 -0. 4163 0. 2313 0. 2313 0. 2313 -0. 1425 0. 0564 -0. 1023 0. 1436 0. 0417	
$\begin{array}{cccccccc} 1 & 1 \\ 2 & 1 \\ 3 & 1 \\ 4 & 2 \\ 5 & 4 \\ 6 & 5 \\ 7 & 5 \\ 8 & 9 \\ 9 & 6 \\ 10 & 10 \\ 11 & 9 \\ 12 & 17 \\ 13 & 17 \\ 14 & 6 \\ 15 & 12 \\ 16 & 2 \\ 17 & 7 \\ 18 & 10 \\ 19 & 12 \\ 20 & 14 \\ 21 & 14 \\ 22 & 19 \\ \# MOLECULE & END \end{array}$	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$					

dock_4HP0/ex.mol2 の一部(GNU コンパイラ使用, sievgene_dk, MacBookPro):



図 1. 得られたドッキングポーズ

ex.mol2 に記録された5つのドッキングポーズのうち、スコアが最も低かったもののみを表示しています。緑色の原子は臭素です。(座標は前ページのものです)

同様の動作テストプログラムが他に3つ用意されています。

%	test_	2W26.sh
%	test_	_2PU2.sh

% test_2PKS.sh

test_4HP0.sh と同様に screening というキーワードを引数に与えると、sievgene_sc を 使います。引数が無い場合には、sievgene_dk を使います。

また、上述の4つのテストプログラム全てを自動的に逐次実行し、結果をまとめて出力 するプログラムは、以下のコマンドです。

% bin/test_all.sh	(sievgene_dk を使用する場合)
% bin/test_all.sh screening	(sievgene_sc を使用する場合)

5. ドッキングシミュレーションに必要なファイル

sievgene でドッキングシミュレーションを行うためには、以下の入力ファイルを用意 する必要があります。括弧内は、計算用サンプルファイルとしてよく使用しているファ イル名の例です。

- (1) タンパク質の座標ファイル
- (2) タンパク質のトポロジーファイル
- (3) ターゲットサイト指定用プローブ点ファイル
- (4) リガンドの立体構造情報ファイル
- (5) 制御ファイル

(例: Pro_md.pdb) (例: Pro.tpl) (例: point.pdb) (例: c001.mol2) (例: s1.inp)

これらのファイルを準備する方法について説明します。

(1)と(2)の作成には、tplgeneX を使用します。(1)と(2)は tplgeneX の出力ファイルとし て得られます。これらを得るためには、tplgeneX の入力ファイルを用意する必要があ ります。tplgeneX の入力ファイルを作成するためには、ターゲットタンパク質の PDB ファイルを加工する必要があります。この加工を手助けするプログラムは pdbcheck で す。

(3)のファイルを用意する方法はいくつかあります。既知活性化合物とターゲットタン パク質との複合体構造が利用可能な場合には、複合体構造の既知活性化合物の座標のみ を取り出して、それをプローブ点ファイルとして使用することができます。また、そう したリガンドが無い場合には、make_point というプログラムを使ってプローブ点を発 生することができます。

(4)は、自分で用意する方法もありますが、ドッキング用に用意された MOL2 ファイル を入手して使用するのが良いでしょう。

(5)のファイルには、(1)~(4)のファイル名とシミュレーションパラメーターを記述します。これについては、サンプルの制御ファイルを編集し、ファイル名等を変更して使用するとよいでしょう。sievgene_packYYMMDD/input/の下に、inp_sievgene1という名前のサンプルの制御ファイルを用意しています。

6. ドッキングシミュレーションの手順

5.で説明したファイルの用意(図 2)を含めて、以下の 手順でドッキングシミュレーションを実施します。 (1) オリジナルの PDB ファイルの内容を確認します。

- (2) ドッキングで使用する分子を検討します。特に、 計算に使用しない分子を決定します。
- ターゲットサイト付近において、リガンドが結合 するのに排除体積効果から障害となる分子は、ド ッキングの妨げになりますので削除します。
- ターゲットサイトから比較的遠くに位置して、タ ーゲットサイトにおけるリガンドの結合に影響 が少ないと考えられる分子(他のユニットに属す るタンパク質鎖、溶媒中の水分子やイオン等)は、 計算する際には、削除しても問題ないと思われま す。
- タンパク質内部に結合している金属イオンは、タ ーゲットタンパク質の一部とみなして残した方 がよいでしょう。金属イオンは比較的大きな電荷 を持ち、比較的長距離に渡って影響を及ぼすので 重要だと考えられます。
 ※get pdb info.pl の出力および分子ビューアで

※get_pdb_info.pl の田刀ねよい分子とユーノ (の表示も参考にするとよいでしょう。

- (3) オリジナルの PDB ファイルを加工して、ドッキングで使用しない分子を削除します。
 ※select_chain.plやUnixのgrepコマンドを使用するといいかもしれません。
- (4) pdbcheck で PDB ファイルを処理します。
 ※pdbcheck の実行には、制御ファイルの作成が 必要です。
- (5) pdbcheckの出力ファイルとして得られた PDB ファイルを入力ファイルとして、tplgeneX を実行 します。tplgeneXの出力ファイルとして、 sievgeneで使用可能な PDB ファイルとそれに対 応したトポロジーファイルが得られます。
 ※tplgeneX の実行には、制御ファイルの作成が必 要です。(対話的にも実行できます。)



図 2. ドッキング用入力ファイル の準備プロセス

- (6) sievgene で使用するターゲットサイト指定用プローブ点ファイルを作成します。このファイルは、複数の方法で作成できます。1つの方法は、オリジナルのPDBファイルに含まれる阻害剤の座標を利用する方法で、他には、make_pointで作成する方法、myPresto用GUIソフト(MF myPresto、MolDesk)を使って、GUI上でマウス操作によって作成する方法等があります。
- (7) ドッキングさせるリガンドの MOL2 ファイルを用意します。
- (8) sievgene の制御ファイルを作成します。
- (9) sievgene を実行します。

7. 手順の具体例

7.1. リゾチーム(4HP0)の例

リゾチーム(4HP0)と低分子化合物とのドッキングは以下の手順で実行します。まず、 sievgene_packYYMMDD.tar.gz を展開したディレクトリに移動してから、以下のコマ ンドを実行してください。

% cd sievgene_packYYMMDD	(移動)
% mkdir tmp_4HP0	(作業用ディレクトリの作成)
% cd tmp_4HP0	(作業用ディレクトリへの移動)
% cp/sample/4HP0.pdb .	(オリジナル PDB ファイルの用意)
%/bin/get_pdb_info.pl 4HP0.pdb	(オリジナル PDB ファイルの内容確認)
	ります。
SSBOND information:SSBOND 1 CYS A 6CYS A 127SSBOND 2 CYS A 30CYS A 115SSBOND 3 CYS A 64CYS A 80SSBOND 4 CYS A 76CYS A 94No of peptide chain:1Chain ID 1: A	1555 1555 2.04 1555 1555 2.07 1555 1555 2.05 1555 1555 2.04
No of ligand name:3 Ligand name 1: NOJ Ligand name 2: NAG Ligand name 3: HOH	

この出力を見ることにより、4HP0.pdbには、SSBONDから始まる行があり、ペプチ ド鎖はA鎖の1本のみ、ペプチド鎖以外では、NOJ、HAG、HOHが含まれているこ とが分かります。この例では、リガンドは、NOJ-NAG-NAGで1分子となって います。つまり、オリジナルのPDBファイルには、ペプチド鎖が1本、リガンドが1 つ、水分子が多数含まれています。この例では、ペプチド鎖のみを残し、リガンドと水 分子を削除します。pdbcheckの制御ファイルで-disableHetオプションをつけることに より、HETATMで始まる行を全て削除することができます。(pdbcheckの使い方の詳 細は、sievgene_packYYMMDD/doc/の下にある pdbcheck_manual_v4.400.pdf を参照 してください。)

getpdb_info.pl もしくは、分子ビューアで PDB ファイルに含まれる分子を観察することは、どの分子を残し、どの分子を削除するかを判断するための手助けになるでしょう。



図 3. 4HP0.pdb の内容描画 タンパク質のペプチド鎖(1本)の他 に阻害剤と水分子が含まれていま す。

次に、pdbcheckの制御ファイルを作成します。テキストエディタを使わずに、入力フ アイルを用意するためには、以下のようにコマンドを実行します。ここでは、pdbcheck の制御ファイル名を inp_pdbchek としています。このファイルの名前は、別のもので もかまいません。

(以下、pdbcheck の制御ファイルの用意)
% echo 4HP0.pdb > inp_pdbcheck
% echo 4HP0_1.pdb >> inp_pdbcheck
% echo -alt >> inp_pdbcheck
% echo -ss >> inp_pdbcheck
% echo -disableHet >> inp_pdbcheck
以上の手順で作成された inp_pdbcheck の内容は以下のようになります。
4HP0.pdb
4HP0 1.pdb

4HP0_1.pdb -alt -ss

-disableHet

pdbcheckの制御用インプットファイルは、2行以上で構成されます。

1行目: 読み込み用 PDB ファイルの名前(パスを含めることもできます。)

2行目:書き出し用 PDB ファイルの名前(パスを含めることもできます。)

3行目以降:使用するオプションを1行に1つずつ記述します。上の例では、3つのオ プションを使用しています。

以下のコマンドで pdbcheck を実行します。

% ../bin/pdbcheck < inp_pdbcheck (pdbchek の実行)

この処理後に出来る 4HP0_1.pdb が、tplgeneX の入力として適した PDB ファイルです。

次に、tplgeneX の制御ファイルを作成します。テキストエディタを使用しないで作成 するには以下のコマンドで、ファイルを用意します。

(以下、tplgenX の制御ファイルの用意)

- % echo 1 > inp_tplgeneX
- % echo 1 >> inp_tplgeneX
- % echo 4HP0_1.pdb >> inp_tplgeneX
- % echo 1 >> inp_tplgeneX
- % echo Pro.pdb >> inp_tplgeneX
- % echo Pro.tpl >> inp_tplgeneX

用意した inp_tplgeneX の内容は以下のようになっています。

1 4HPO_1.pdb 1 Pro.pdb

Pro. tpl

(現在フォーマット変更中 (数字の部分) -> pdb/pdbx など)

次のコマンドで実行します。

%/bin/exec_tplgeneX.sh < inp_tplgene	X (tplgenX の実行)
--------------------------------------	-----------------

このコマンドが問題なく終了すれば、sievgene の入力ファイルとして使用できる PDB ファイル(Pro.pdb)、トポロジーファイル(Pro.tpl)が作成されています。

ターゲットサイト指定用プローブ点ファイルの作成:

ここでは、オリジナルの PDB ファイルに含まれている阻害剤(NOJ-NAG-NAG)を利用します。次のコマンドで該当部分を抽出します。

% grep "^HETATM" 4HP0.pdb | grep -v "HOH" > point.pdb (プローブ点データの作成)



図 4. ターゲットタンパク質とプローブ点 PDB ファイルから水分子とリガンド分子を除去 したものをターゲットタンパク質の PDB ファイル とし、リガンド分子の座標をプローブ点として使 用しています(緑色の点)。 リガンドファイルの準備:

次のコマンドでサンプルとして用意してあるリガンドの mol2 ファイルを作業ディレク トリにコピーします。サンプルとして用意した sievgene 制御ファイル内にて、読み込 むリガンドファイル名を ligand.mol2 と設定していますので、ligand.mol2 という名前 にしています。他の名前のファイルを使用するためには制御ファイル内の記述を変更す る必要があります。

cp ../sample/c001-1.mol2 ./ligand.mol2

sievgene 制御用ファイルの準備:

次のコマンドで、サンプルとして用意している制御用ファイルを作業しているディレク トリにコピーします。

% cp ../input/inp_sievgene1 .

この動作テスト用プログラムでは、サンプルで用意した sievgene の入力ファイル (inp_sievgene1)を変更なしに使用できるようになっていますが、このファイルは、 sievgene を実行するディレクトリに、以下の名前でファイルを用意していることを想 定しています。

PDB ファイル: Pro.pdb トポロジーファイル: Pto.tpl ターゲットサイト指定用プローブ点ファイル: point.pdb ドッキングさせるリガンド: ligand.mol2

inp_sievgene1の内容を以下に示します。

inp_sievgene1:

```
Sample input for sievgene version4.
 Slow but more precise than the input for screening.
PHASE> INPUT
 LIGAND =
              MOL2
 NAMELI
         =
              ligand.mol2; リガンドの座標位置ファイル
 REFERE
         =
              NORE
 NAMERE
         =
              ligand.mol2 ; リガンドの参照位置ファイル
              FORM
  TOPOLO
         =
              Pro. tpl ; 蛋白側のトポロジー
  NAMETO
         =
              PDB
  COORDI
         =
 NAMECO
         =
              Pro.pdb ; 蛋白側の座標
              PDB
  POINTC
         =
              point.pdb ;ポケット領域を示すプローブ点
 NAMEPO
         =
  SETTAR = NORE
 DAMPPA = 1.0d0
 QUIT
 gird generation and Hash table generation
PHASE> GRID
 GRIDPOtential
                 = NORE
                               ; Grid file reading SW (NORE/ASCI/BINA)
 NAMEGRid
                 = grid.file
                               ; Grid file
                               ; Grid file writing SW (NOWR/ASCI/BINA)
 OUTGRIdpotential = NOWR
 PROBDIst = 6.5
          = 6.5
 MARGIN
                 ; search margin
          = 3
                 iteration of Grid potential smoothing
  ITERAT
          = 0.6
 RADVDW
                 ; vDW boundary
 RADELE
          = 0.6
                  coulonb boundary
 RADMESh = 1.4
                 ; probe radius
 DAMPVW = 0.99d0
 USEPBG = NO
                 ; not use PB
 QUIT
```

; conformer generation PHASE> CONF ATMMDL = ALL ; UNIT ; united atom model CONFLImit = 100000 ; CONFORmernumber = 100= YES SORTATom DAMPINg = 0.7 PHASETorsion = 3 = YES ROTTER QUIT PHASE> DOCK METHOD = FLEX PROSUR = HYDR= 1 GENERAtion 1000 ; number of triangle = 50000 ; NUMCONFomer MATCHING = 2 LOWMIN = 2.5 LOWMAX = 3.5 UPRMIN = 5.0 matching type = 12.0 UPRMAX RADIUS = 6.0WETVDW = 1.0WETASA = 1.0WETELE = 1.0WETHYD = 1.0EVALHB = NO $\overline{W}ETANH = 1.0d0$ ROTLOH = NO ROTPSC = NO $\begin{array}{rrrr} \text{MOVNUM} &=& 200 & ; & 10 \\ \text{CANDID} &=& 10 & ; & 10 \end{array}$; ; DOCKSP = FAST QUIT EXE> MIN METHOD= STEEP CPUTIM = 360000.0UPRATE= DOWNRATE= 0.3 1.0 UPDATE = 100 CONVGR = 0.1D0 CUTLEN = 22.0D0 LOOPLI= 50 MONITO= 50 RESA CUTMET= DIEFUN= DIST DIEVAL = 4. ODO LOGFOR= SHOR QUIT PHASE> OUTPUT COORDInate = MOL2 ; coordinate file type NAMECOordinate = ex.mol2 ; coordinate file ; score file ; number of PDB ; number of score = ex.score NAMESCore CANDIDatenumber= 5 SCORENumber = 5 QUIT

EXE> SIEV 自分で編集する場合に、特に気をつける必要があるのは、赤字の箇所です。特に入力フ ァイルが適切に設定されていなければ、計算に失敗しますので、パスを含めて正確に記 述してください。 sievgene の実行:

次のコマンドで sievgene_dk(sievgene_for_dockingpose)を実行します。

../bin/sievgene_dk < inp_sievgene1</pre>

ドッキングスコアの結果は ex.socre に、ドッキングポーズは ex.mol2 に出力されてい ます。

INFORMATION> BE	FORE MINIMIZ		G ∶EXPI	ERIMENT I	D=1				
INFORMATION/ L	UGAL SOURE R	ANKING		5					
SCORE (/100) 1 -1.88 - 2 -1.86 - 3 -1.83 - 4 -1.83 - 5 -1.82 -	dG HIT -5.15 -47.44 -5.06 -48.62 -5.01 -47.35 -5.02 -45.69 -5.00 -49.10	MTS -180.65 -177.76 -175.75 -176.35 -175.05	rotNur 0 0 0 0	n ASA -170.89 -170.24 -166.50 -166.38 -163.36	ELE 1. 18 0. 28 0. 42 1. 47 -1. 26	HYD -18. 04 -15. 83 -17. 00 -18. 08 -17. 82	VDW 0. 00 0. 00 0. 00 0. 00 0. 00	SURFACE 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00	RMSD 24. 95 25. 30 25. 21 25. 11 25. 57
REFERENCE COOR 999.90 999	DINATE DATA .90 0.00	0.00							
INFORMATION> A INFORMATION> L	FTER MINIMIZ OCAL SCORE R	E RANKIN ANKING	G :EXPI	ERIMENT I 5	D=1				
COMPOUND NAM FILE NAME	E : HTS1404- : ligand.m	00000229 [.] o 2	-01						
SCORE (/100) @ 1 -1.95 - @ 2 -1.93 - @ 3 -1.89 - @ 4 -1.89 - @ 5 -1.88 -	dGHIT-5.37-50.06-5.28-47.45-5.19-47.86-5.19-46.62-5.14-46.72	MTS -188.10 -186.01 -182.02 -182.27 -180.92	rotNur 0 0 0 0 0	n ASA -173.66 -177.05 -172.38 -169.47 -170.72	ELE 0. 11 2. 37 1. 18 1. 55 1. 69	HYD -20. 98 -18. 10 -18. 04 -20. 12 -18. 28	VDW -0.59 -0.69 0.00 -0.83 -0.82	SURFACE 69. 89 68. 31 68. 26 71. 44 69. 61	RMSD 24. 92 24. 98 24. 95 25. 21 25. 22
REFERENCE COOR 999.90 999	DINATE DATA .90 0.00	0.00							
INFORMATION> C	OMPOUND RANK	ING		1					
COMPOUND 1 HTS1404-0	NAME 0000229-01			SCO	RE (/100 -1.95) dG −5.37	HIT -50.06	MTS -188.10	0

7.2. AmpC(2PU2)の例

AmpC(2PU2.pdb)をターゲットとしたドッキングの手順について説明します。 sievgene_packYYMMDD/に移動してから、以下のコマンドを実行してください。

% mkdir tmp_2PU2

% cd tmp_2PU2

% cp ../sample/2PU2.pdb .

% .../bin/get_pdb_info.pl 2PU2.pdb

次の枠内の情報は、get_pdb_info.pl の出力例です。

No SSBOND line. No of peptide chain:2 Chain ID 1: A Chain ID 2: B No of ligand name:3 Ligand name 1: PO4 Ligand name 2: DK2 Ligand name 3: HOH

この情報を参考にして、使用する分子を検討します。ここでは、A鎖のみを使用します。



図 5. 2PU2.pdb の内容描画

2PU2.pdb には同じユニットが2つ含まれており、それぞれに阻害剤が 結合しています。他に、PO4と水分子が含まれています。

%../bin/select_chain.pl A 2PU2.pdb > 2PU2_1.pdb (A 鎖のみを出力します。)

- % echo 2PU2_1.pdb > inp_pdbcheck
- % echo 2PU2_2.pdb >> inp_pdbcheck
- % echo -alt >> inp_pdbcheck
- % echo -ss >> inp_pdbcheck
- % echo -disableHet >> inp_pdbcheck
- % ../bin/pdbcheck < inp_pdbcheck</pre>

- % echo 1 > inp_tplgeneX % echo 1 >> inp_tplgeneX % echo 2PU2_2.pdb >> inp_tplgeneX % echo 1 >> inp_tplgeneX % echo Pro.pdb >> inp_tplgeneX % echo Pro.tpl >> inp_tplgeneX % ../bin/exec_tplgeneX.sh < inp_tplgeneX % grep "^HETATM" 2PU2_1.pdb | grep "DK2" > point.pdb (DK2 の座標をプローブ点として使用します) % cp ../sample/c001-1.mol2 ligand.mol2
- % cp ../input/inp_sievgene1 .
- % ../bin/sievgene_dk < inp_sievgene1</pre>



図 6. ターゲット指定用プローブ点(左図, 緑点) とドッキング構造の例(右図, 赤色) (2PU2)

7.3. Factor Xa(2W26)の例

Factor Xa(2W26.pdb)をターゲットとしたドッキングの手順について説明します。 sievgene_packYYMMDD/に移動してから、以下のコマンドを実行してください。

% mkdir tmp_2W26			
% cd tmp_2W26			
% cp/sample/2W26.pdb .			
%/bin/get_pdb_info.pl 2W26.pdb			
次の枠内は、get_pdb_info.pl の出力例です。			
SSBOND information:SSBOND 1 CYS A 22CYS A 27SSBOND 2 CYS A 42CYS A 58SSBOND 3 CYS A 122CYS B 44SSBOND 4 CYS A 168CYS A 182SSBOND 5 CYS A 191CYS A 220SSBOND 6 CYS B 1CYS A 122SSBOND 7 CYS B 8CYS B 12SSBOND 8 CYS B 23CYS B 21SSBOND 8 CYS B 23CYS B 36No of peptide chain:2Chain ID 1: AChain ID 2: P	1555 1555 1555 1555 1555 1555 1555 155	1555 1555 1555 1555 1555 1555 1555 155	2. 07 2. 05 2. 05 2. 02 2. 03 2. 05 2. 02 2. 06
No of ligand name:3 Ligand name 1: RIV Ligand name 2: CA Ligand name 3: HOH			



図 7.2W26.pdbの描画

タンパク質のペプチド鎖(2本)の他に、阻害剤 (RIV)、カルシウムイオン(CA)、水分子が含まれ ている。このタンパク質は、2本の鎖で1つのユ ニットを形成している。

ここでは、CAとHOHを除去し、RIVの座標をプローブ点情報として使用します。

```
% grep -v RIV 2W26.pdb > 2W26_1.pdb
% grep -v HOH 2W26_1.pdb > 2W26_2.pdb
% echo 2W26_2.pdb > inp_pdbcheck
% echo 2W26_3.pdb >> inp_pdbcheck
% echo -alt >> inp_pdbcheck
% echo -ss >> inp_pdbcheck
% echo -disableHet >> inp_pdbcheck (このオプションを使用しません。)
% ../bin/pdbcheck < inp_pdbcheck</pre>
% echo 1 > inp_tplgeneX
% echo 1 >> inp_tplgeneX
% echo 2W26_3.pdb >> inp_tplgeneX
% echo 1 >> inp_tplgeneX
% echo Pro.pdb >> inp_tplgeneX
% echo Pro.tpl >> inp_tplgeneX
% ../bin/exec_tplgenX.sh < inp_tplgeneX
% grep "^HETATM" 2W26.pdb | grep "RIV" > point.pdb
 (RIVの座標をプローブ点として使用します)
% cp ../sample/c001-1.mol2 ligand.mol2
% cp ../input/inp_sievgene1 .
% ../bin/sievgene_dk < inp_sievgene1</pre>
```



図 8. ターゲット指定用プローブ点(左図, 緑点) とドッキング構造の例(右図, 赤色)(2W26)

7.4. トロンビン(2PKS)の例

トロンビン(2PKS.pdb)をターゲットとしたドッキングの手順について説明します。まずは、sievgene_packYYMMDDに移動してから、以下のコマンドを実行してください。

% mkdir tmp_2PKS

% cd tmp_2PKS

% cp ../sample/2PKS.pdb .

% .../bin/get_pdb_info.pl 2PKS.pdb

次の枠内は、get_pdb_info.plの出力例です。

SSBOND information: SSBOND 1 CYS A 9 SSBOND 2 CYS B 64 SSBOND 3 CYS C 203 SSBOND 4 CYS C 231	CYS B 155 CYS B 80 CYS C 217 CYS C 261	1555 1555 1555 1555	1555 2.05 1555 2.00 1555 2.01 1555 2.02
No of peptide chain:4 Chain ID 1: A Chain ID 2: B Chain ID 3: C Chain ID 4: D			
No of ligand name:4 Ligand name 1: TYS Ligand name 2: NA Ligand name 3: G44 Ligand name 4: HOH			



図 9. 2PKS.pdb の描画

タンパク質のペプチド鎖(4本)の他に、 阻害剤(G44)、ナトリウムイオン(NA)、水 分子が含まれています。TYS は、改変 アミノ酸で、硫酸化チロシンであり、タン パク質の一部です。

get_pdb_info.pl において ligand name と報告されているものは、PDB ファイルにおい て HETATM から始まるデータ行の残基名です。この PDB ファイルにおける TYS は、 少し特殊です。これは、タンパク質の鎖の途中で1残基のデータに相当する部分が HETATM で始まり、残基名が TYS となっています。これは改変アミノ酸です。TYR が硫酸化したものです。このような状況は、get_pdb_info.pl の出力のみでは分かりに くいので、分子ビューアで PDB ファイルに含まれる情報を GUI で確認し、さらに、 テキストエディタで PDB ファイルの中身をさっと確認するとよいでしょう。こうした 改変アミノ酸は、そのままでは計算に使用できません。TYS を削除すると該当残基が 全て取り除かれ、そこで鎖が分断してしまいます。この改変が重要でない場合には、改 変アミノ酸を、改変前のアミノ酸に変更するとよいでしょう。テキストエディタでファ イルを編集することによって、この変更は可能です。下の例のように、硫酸基部分の原 子を除去し、HETATM を ATOM に、TYS を TYR に変更します。具体的には、原子番 号 2316~2319 までを削除します。

2PKS.pdb に含まれる改変アミノ酸の例:

	2306	Ν	TYS D	363	15, 835	3,000	-5, 497	1.00 82	02	N	
HETATM	2307	CA	TYS D	363	16, 520	2, 761	-4, 197	1.00 81.	45	С	
HETATM	2308	CB	TYS D	363	15, 431	2.501	-3, 109	1.00 80.	17	С	
HETATM	2309	ĊĠ	TYS D	363	14.488	3.694	-2.956	1.00 78	55	Č	
HETATM	2310	CD1	TYS D	363	15.004	4.952	-2.635	1.00 76	64	Č	
HETATM	2311	CD2	TYS D	363	13, 108	3.574	-3, 136	1.00 76.	01	С	
HETATM	2312	CE1	TYS D	363	14, 181	6.068	-2.495	1.00 74.	14	С	
HETATM	2313	CE2	TYS D	363	12, 282	4.699	-3.003	1.00 74	26	Č	
HETATM	2314	CZ	TYS D	363	12.802	5.961	-2.659	1.00 72.	73	С	
HETATM	2315	OH	TYS D	363	12.032	7.109	-2.549	1.00 72.	04	0	
HETATM	2316	S	TYS D	363	11. 117	7.359	-1.320	1.00 68.	15	S	
HETATM	2317	01	TYS D	363	10. 102	6.300	-1.225	1.00 65.	01	0	
HETATM	2318	02	TYS D	363	12.036	7.495	-0.203	1.00 68.	32	0	
HETATM	2319	03	TYS D	363	10. 478	8.653	-1.507	1.00 69.	42	0	
HETATM	2320	С	TYS D	363	17.600	1.668	-4. 333	1.00 81.	84	С	
HETATM	2321	0	TYS D	363	17.961	1.040	-3.360	1 00 82	05	0	
								1.00 02.		•	
改変ア	ミノ酸	愛部ら	うの修	正例:				11 00 02			
改変ア ATOM	ミノ酸 2306	愛部ら N	うの修 TYR D	正例: 363	15, 835	3,000	-5, 497	1.00 82	02	N	
改変ア ATOM ATOM	ミノ酸 2306 2307	愛部ク N CA	うの修 TYR D TYR D	正例: 363 363	<u>15. 835</u> 16. 520	3.000 2.761	-5. 497 -4. 197	1.00 82. 1.00 81.	02 45	N C	
改変ア ATOM ATOM ATOM	ミノ酸 2306 2307 2308	と と と と 日 の の の の の の の の の の の の の の の	うの修 TYR D TYR D TYR D TYR D	正例: 363 363 363	<u>15. 835</u> <u>16. 520</u> 15. 431	3.000 2.761 2.501	-5. 497 -4. 197 -3. 109	1.00 82. 1.00 81. 1.00 80.	02 45 17	N C C	
改変ア ATOM ATOM ATOM ATOM	ミノ酸 2306 2307 2308 2309	文字 文字 文字 文字 文字 文字 文字 文字 文字 文 文 文 文 文	うの修 TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D	正例: 363 363 363 363 363	<u>15. 835</u> <u>16. 520</u> 15. 431 14. 488	3. 000 2. 761 2. 501 3. 694	-5. 497 -4. 197 -3. 109 -2. 956	1. 00 82. 1. 00 81. 1. 00 80. 1. 00 78.	02 45 17 55	N C C C	
改変ア ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM	ミノ酢 2306 2307 2308 2309 2310	と と と と と し し し し し し し し し し し し の の し の の の の	うの修 TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D	正例: 363 363 363 363 363 363	15. 835 16. 520 15. 431 14. 488 15. 004	3.000 2.761 2.501 3.694 4.952	-5. 497 -4. 197 -3. 109 -2. 956 -2. 635	1. 00 82. 1. 00 81. 1. 00 80. 1. 00 78. 1. 00 76.	02 45 17 55 64	N C C C C C	
改変ア ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM	ミノ酸 2306 2307 2308 2309 2310 2311	後部 CA CB CG CD1 CD2	うの修 TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D	正例: 363 363 363 363 363 363 363	15. 835 16. 520 15. 431 14. 488 15. 004 13. 108	3.000 2.761 2.501 3.694 4.952 3.574	-5. 497 -4. 197 -3. 109 -2. 956 -2. 635 -3. 136	1. 00 82. 1. 00 81. 1. 00 80. 1. 00 78. 1. 00 76. 1. 00 76.	02 45 17 55 64 01	N C C C C C C C	
改変ア ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM	ミノ酸 2306 2307 2308 2309 2310 2311 2312	後部分 CA CB CD1 CD2 CE1	うの修 TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D	正例: 363 363 363 363 363 363 363 363	15. 835 16. 520 15. 431 14. 488 15. 004 13. 108 14. 181	3.000 2.761 2.501 3.694 4.952 3.574 6.068	-5. 497 -4. 197 -3. 109 -2. 956 -2. 635 -3. 136 -2. 495	1. 00 82 1. 00 81 1. 00 80 1. 00 78 1. 00 76 1. 00 76 1. 00 74	02 45 17 55 64 01 14	N C C C C C C C C	
改変ア ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM	ミノ酢 2306 2307 2308 2309 2310 2311 2312 2313	虔部 CA CB CD1 CD2 CE1 CE2	うの修 TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D	正例: 363 363 363 363 363 363 363 363 363	15. 835 16. 520 15. 431 14. 488 15. 004 13. 108 14. 181 12. 282	3.000 2.761 2.501 3.694 4.952 3.574 6.068 4.699	-5. 497 -4. 197 -3. 109 -2. 956 -2. 635 -3. 136 -2. 495 -3. 003	1. 00 82 1. 00 81 1. 00 80 1. 00 78 1. 00 76 1. 00 76 1. 00 74 1. 00 74	02 45 17 55 64 01 14 26	N C C C C C C C C C C	
改変ア ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM	ミノ酢 2306 2307 2308 2309 2310 2311 2312 2313 2314	虔部 CA CB CD1 CD2 CE1 CE2 CZ	うの修 TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D TYR D	正例: 363 363 363 363 363 363 363 363 363 36	15. 835 16. 520 15. 431 14. 488 15. 004 13. 108 14. 181 12. 282 12. 802	3.000 2.761 2.501 3.694 4.952 3.574 6.068 4.699 5.961	-5. 497 -4. 197 -3. 109 -2. 956 -2. 635 -3. 136 -2. 495 -3. 003 -2. 659	1. 00 82 1. 00 81 1. 00 80 1. 00 78 1. 00 76 1. 00 76 1. 00 74 1. 00 74 1. 00 72	02 45 17 55 64 01 14 26 73	N C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	
改変ア ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM	ミノ酸 2306 2307 2308 2309 2310 2311 2312 2313 2314 2315	g部分 CA CB CD1 CD2 CE1 CE2 CZ OH	うの修 TYR D TYR D	正例: 363 363 363 363 363 363 363 363 363 36	15. 835 16. 520 15. 431 14. 488 15. 004 13. 108 14. 181 12. 282 12. 802 12. 032	3.000 2.761 2.501 3.694 4.952 3.574 6.068 4.699 5.961 7.109	-5. 497 -4. 197 -3. 109 -2. 956 -2. 635 -3. 136 -2. 495 -3. 003 -2. 659 -2. 549	1. 00 82 1. 00 81 1. 00 80 1. 00 78 1. 00 76 1. 00 76 1. 00 74 1. 00 74 1. 00 72 1. 00 72	02 45 17 55 64 01 14 26 73 04	N C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	
改変ア ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM ATOM	ミノ酸 2306 2307 2308 2309 2310 2311 2312 2313 2314 2315 2320	安部 CA CB CD1 CD2 CE1 CE2 CZ OH C	子の修 TYR D TYR D	正例: 363 363 363 363 363 363 363 363 363 36	15. 835 16. 520 15. 431 14. 488 15. 004 13. 108 14. 181 12. 282 12. 802 12. 032 17. 600	3.000 2.761 2.501 3.694 4.952 3.574 6.068 4.699 5.961 7.109 1.668	-5. 497 -4. 197 -3. 109 -2. 956 -2. 635 -3. 136 -2. 495 -3. 003 -2. 659 -2. 549 -4. 333	1. 00 82 1. 00 81 1. 00 80 1. 00 78 1. 00 76 1. 00 76 1. 00 74 1. 00 74 1. 00 74 1. 00 72 1. 00 72 1. 00 81	02 45 17 55 64 01 14 26 73 04 84	N C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	

tplgeneX で処理後の該当箇所:

ATOM	4584	Ν	TYR D) 9	15. 835	3.000	-5. 497 14. 01 -0. 42
ATOM	4585	Н	TYR D) 9	14. 932	2.562	-5.614 1.01 0.27
ATOM	4586	CA	TYR D) 9	16. 520	2. 761	-4. 197 12. 01 -0. 00
ATOM	4587	HA	TYR D) 9	16. 996	3.682	-3.862 1.01 0.09
ATOM	4588	CB	TYR D) 9	15. 431	2. 501	-3.109 12.01 -0.02
ATOM	4589	HB2	TYR D) 9	14. 839	1.630	-3.388 1.01 0.03
ATOM	4590	HB3	TYR D) 9	15. 913	2. 320	-2.148 1.01 0.03
ATOM	4591	CG	TYR D) 9	14. 488	3.694	-2.956 12.01 -0.00
ATOM	4592	CD1	TYR D) 9	15. 004	4.952	-2.635 12.01 -0.19
ATOM	4593	HD1	TYR D) 9	16.067	5.079	-2. 488 1. 01 0. 17
ATOM	4594	CE1	TYR [) 9	14. 181	6.068	-2. 495 12. 01 -0. 23
ATOM	4595	HE1	TYR [) 9	14. 611	7.030	-2. 257 1. 01 0. 17
ATOM	4596	CZ	TYR D) 9	12. 802	5.961	-2.659 12.01 0.32
ATOM	4597	OH	TYR [) 9	12. 032	7.109	-2.549 16.00 -0.56
ATOM	4598	HH	TYR [) 9	11.095	6.945	-2.676 1.01 0.40
ATOM	4599	CE2	TYR D) 9	12. 282	4.699	-3.003 12.01 -0.23
ATOM	4600	HE2	TYR [) 9	11. 215	4.605	-3. 142 1. 01 0. 17
ATOM	4601	CD2	TYR [) 9	13. 108	3. 574	-3. 136 12. 01 -0. 19
ATOM	4602	HD2	TYR D) 9	12. 676	2.614	-3.378 1.01 0.17
ATOM	4603	С	TYR [) 9	17.600	1.668	-4. 333 12. 01 0. 60
ATOM	4604	0	TYR [) 9	17.961	1.040	-3.360 16.00 -0.57

tplgeneX によって、水素原子付加および欠損原子の付加が行われるので、原子番号は オリジナルのものより多くなります。tplgeneX では残基番号は変更されます。上の例 では、主鎖の N(緑色の字、かつ、下線)と主鎖の CA(青色の字、かつ、下線)の座標が一 致しています。





図 10. 硫化チロシン残基とチロシン残基

2PKS.pdb に含まれる硫化チロシン残基の構造(左図、水素はこの時点では付加していません)と、 チロシン残基に変更後に tplgeneX で処理後の原子配置(右図、水素が付加されています)。 テキストエディタで、TYS を TYR に変更したファイルを、2PKS_mod.pdb として tmp_2PKS/の下に保存します。2PKS_mod.pdb は、sample/に保存してありま す。bin/test_2PKS.sh では、この 2PKS_mod.pdb を使用しています。 再度、get_pdb_info.pl を使用して、PDB ファイルの内容を確認します。

% cp ../sample/2PKS_mod.pdb . (サンプルとして提供しているものをそのまま使う場合) % ../bin/get_pdb_info.pl 2PKS_mod.pdb

以下の出力例が得られます。

SSBOND information: SSBOND 1 CYS A 9 SSBOND 2 CYS B 64 SSBOND 3 CYS C 203 SSBOND 4 CYS C 231	CYS B 155 CYS B 80 CYS C 217 CYS C 261	1555 1555 1555 1555	1555 2.05 1555 2.00 1555 2.01 1555 2.02						
No of peptide chain:4 Chain ID 1: A Chain ID 2: B Chain ID 3: C Chain ID 4: D									
No of ligand name:3 Ligand name 1: NA Ligand name 2: G44 Ligand name 3: HOH									

TYS が ligand としてレポートされなくなりました。ここでは、以下のコマンドを使って、A 鎖~D 鎖までを使用し、NA を残し、G44 と HOH は削除してから、pdbcheck、tplgeneX、 sievgene を順番に実行します。

% grep -v G44 2PKS_mod.pdb > 2PKS_1.pdb					
% grep -v HOH 2PKS_1.pdb > 2PKS_2.pdb					
% echo <pre>2PKS_2.pdb > inp_pdbcheck</pre>					
<pre>% echo 2PKS_3.pdb >> inp_pdbcheck</pre>					
% echo -alt >> inp_pdbcheck					
% echo -ss >> inp_pdbcheck					
% echo -disableHet >> inp_pdbcheck (このオプションを使用しません。)					
%/bin/pdbcheck < inp_pdbcheck					
% echo 1 > inp_tplgeneX					
% echo 1 >> inp_tplgeneX					
% echo 2PKS_3.pdb >> inp_tplgeneX					
% echo 1 >> inp_tplgeneX					
% echo Pro.pdb >> inp_tplgeneX					
% echo Pro.tpl >> inp_tplgeneX					
%/bin/exec_tplgeneX.sh < inp_tplgeneX					

- % grep "^HETATM" 2PKS_mod.pdb | grep "G44" > point.pdb
- % cp ../sample/c001-1.mol2 ligand.mol2
- % cp ../input/inp_sievgene1 .
- % .../bin/sievgene_dk < inp_sievgene1</pre>



図 11. ターゲット指定用プローブ点(左図, 緑点) とドッキング構造の例(右図, 赤色) (2PKS)

8. ツールプログラムについての説明

本章では、sievgene_pack に含まれるツールプログラムの一部について説明します。 sievgene, pdbcheck, tplgeneX, tplgeneL, Hgene については、それぞれのマニュアルが ありますので、そちらを参照してください。make_point については、sievgene のマニ ュアルを参照してください。

• get_pdb_info.pl

このプログラムは、PDB ファイルに含まれる分子についての情報を出力します。 ドッキングに使用する分子、使用しない分子を選択する際に参考にするといいで しょう。引数で与えた PDB ファイルを解析し、以下の内容をレポートします。

- ヘッダーにおける SSBOND 行
- ペプチド鎖の数と各 ID
- HETATM から始まる行に出現する残基名とその種類の数

使用方法:

% (パス)/get_pdb_info.pl (pdb ファイル名)											
使用例:											
%/bin/get_pdb_info.pl 4HP0.pdb											
出力例:											
SSBOND information: SSBOND 1 CYS A 6 CYS A 127 SSBOND 2 CYS A 30 CYS A 115 SSBOND 3 CYS A 64 CYS A 80 SSBOND 4 CYS A 76 CYS A 94	1555 1555 1555 1555 1555	1555 1555 1555 1555	2. 04 2. 07 2. 05 2. 04								
No of peptide chain:1 Chain ID 1: A											
No of ligand name:3 Ligand name 1: NOJ Ligand name 2: NAG Ligand name 3: HOH											

このレポートから、以下のことが分かります。4HP0.pdb には、

- SSBOND 行も含まれている
- ペプチド鎖はA鎖のみ
- HETATM 行から始まる行に登場する残基名の種類は3種類で、それらは、NOJ, NAG, HOH。

• select_chain.pl

このプログラムは、PDB ファイルの中から特定の鎖 ID を持つものを標準出力に 出力します。

使用方法:

% select_chain.pl (鎖の ID) (入力 PDB ファイル名) > (出力 PDB ファイル名)

使用例:

% ../bin/select_chain.pl A 2PU2.pdb > 2PU2_1.pdb

• select_res.pl

このプログラムは、PDBファイルの中から特定の残基名のものを標準出力へ出力します。

使用方法:

% select_res.pl (残基名に記述された ID) (入力 PDB ファイル名) > (出力 PDB ファイル名)

使用例:

% ../bin/select_res.pl DK2 2PU2.pdb > point.pdb

• exec_tplgeneX.sh

このプログラムは sievgene_pack/bin/tplgeneX を実行するためのプログラムで、 tplgeneX を実行する前に、環境変数 TPL_DB_PATH を設定します。プログラム の中身は以下の通りです。

exec_tplgeneX.sh:

#!/bin/bash

DIR=\$(cd \$(dirname \$0); cd ..; pwd) echo \$DIR export PATH=\$DIR/bin:\$PATH export TPL_DB_PATH=\$DIR/src/tplgeneX/tplgeneX/DB echo "TPL_DB_PATH:\$TPL_DB_PATH" which tplgeneX tplgeneX

\bullet exec_tplgeneL.sh

このプログラムは sievgene_pack/bin/tplgeneL を実行するためのプログラムで、 tplgeneL を実行する前に、環境変数 TPLL_DB_PATH を設定します。プログラム の中身は以下の通りです。

exec_tplgeneL.sh:

#!/bin/bash

DIR=\$(cd \$(dirname \$0); cd ...; pwd) echo \$DIR export PATH=\$DIR/bin:\$PATH export TPLL_DB_PATH=\$DIR/src/tplgeneL/tplgeneL/DB echo "TPLL_DB_PATH:\$TPLL_DB_PATH" which tplgeneL tplgeneL

9. リファレンス

- [1] 神谷成敏・肥後順一・福西快文・中村春木,タンパク質計算科学 一基礎と創薬への 応用一,共立出版,2009年8月.
- [2] "user_manual_v4.400_ja.pdf" .
- [3] "pdbcheck_manual_v4.400_ja.pdf" .
- [4] "sievgene_manual_v4.400_ja.pdf".
- [5] "tplgeneX_manual_v4.400_ja.pdf" .